令和４年度の取り組み状況について（学校教育課）

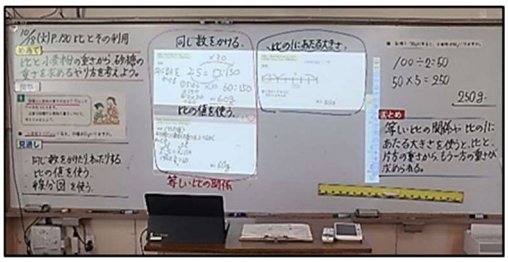
芦屋町教育委員会では、令和４年度よりこれまでの「ＩＣＴ教育の推進」と「シビックプライドの醸成」に新たに「英語教育の充実」を加えた３本柱の学校教育の重点を作成し、「芦屋町を誇りに思い、確かな学力と豊かなコミュニケーション力を持った児童生徒の育成」に取り組んだ。

１　ＩＣＴ教育の推進

（１）ＩＣＴを効果的に活用した授業実践例

①算数科学習指導におけるタブレット端末の活用例

課題解決に向けた自分なりの考えを、図、式、言葉、記号等を関係付け、根拠を明らかにして、タブレット端末にまとめた。



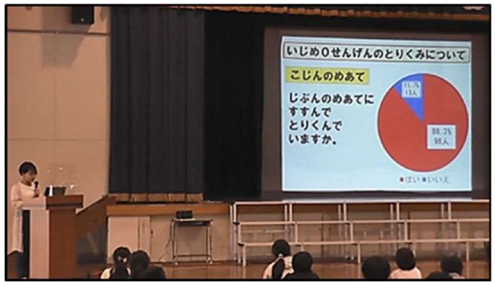
白板に投影された複数の考えを比べ、解を導く過程の共通点から数理を見出すよう促した。

②小学校理科学習指導、特別支援学級におけるタブレット端末の活用例

タブレットを活用して理科の観察をする利点は、①写真撮影により一瞬で自然の事物、事象の記録が残せる、②植物等の細かいつくりや様子が観察でき、様々な事物、事象について視覚に訴えることができた。

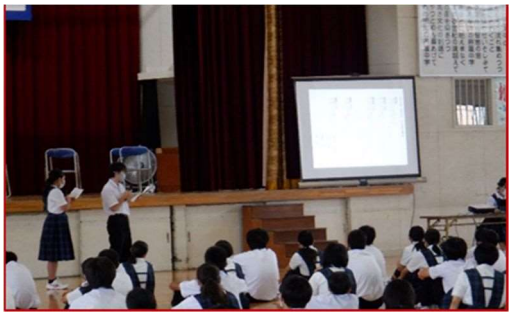
タブレット機能や学習アプリを活用して，スモールステップで学習内容を習得できるようにしたり，ゲーム感覚で楽しく学習することで学習意欲を持続したりできるように工夫した。

（２）ＩＣＴ機器を効果的に活用した教育活動例



児童会役員が、本年度の児童会の取組についての評価を行うために、タブレット端末を活用し、３～６年生を対象にアンケート調査を行い、その結果を全校児童に報告した。

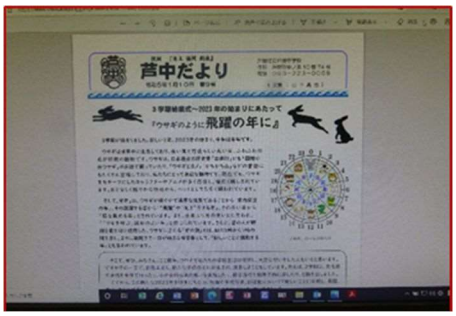
芦屋中学校との合同挨拶運動を行った後、Teams を使って意見交換を行った。中学生から、相手を見てしっかり挨拶することの助言を受け、改善を図ることができた。



「始業式・終業式」
校長室よりオンライン配信で行った。

「生徒会選挙」
プレゼンを活用して、投票の説明を行った。

（３）その他ＩＣＴ機器を活用した取組例



Teams を活用して、絵本の読み聞かせを行った。

家庭への連絡アプリであるスクリレを使って、「学校便り」の配信を行った。

2　シビックプライドの醸成

（１）歴史や文化にふれる事例

本年度新たに「町内５年生合同シビックプライドフィールドワーク」を実施し、芦屋町に関する認識を深める機会となった。

集会委員会の企画・運営による「芦屋かるた大会」を実施した。かるたを通して、芦屋町の名所や旧跡、歴史等への関心が高まった。

学芸員、鋳物師による修学旅行事前学習～芦屋と京都のつながりを学んだ。

学芸員、鋳物師さんから事前に学んだことを泉屋博古館で確かめた。

（２）郷土、地域、学校への誇りを育てる取組

あいさつ運動を芦屋中の生徒（東小卒業生）と合同で行い、よりよい挨拶の行い方を中学生に学ぶ機会となった。

小中合同音楽の集いを実施し、各学校の最上級生が絆を深めることができた。

芦屋中美術部が、あしや砂像展へ出品した。

芦屋中サッカー部卒業生より、ジャージの贈呈を受けた。

3　英語教育の充実

体験型英語学習（県推進事業）で、外国の方とのオンライン学習を実施した。（小学校）

体験型英語学習（県推進事業）で、外国人と交流した。（中学校）

イングリッシュ・キャンプでの活動は、全て英語で行われた。日本語は禁止であった。

夏休みの国内留学である、イングリッシュ・キャンプは河口湖の施設で行った。

令和５年度の取り組み予定について（学校教育課）

（１）ＩＣＴ教育の推進

①　ＩＣＴを効果的に活用した授業実践

○　芦屋小学校において「芦屋町研究指定・委嘱」の３年次の研究発表会を実施し、研究の成果と課題を広く発信する。

②　ＩＣＴを効果的に活用した教育活動の実践

○　授業以外の教育活動に日常的に活用し、学校の教育活動の充実に努める。

③　芦屋町に異動してきた教職員のＩＣＴ活用実践力の向上

○　年度当初に芦屋東小学校　秋吉教諭による模擬授業を実施し、芦屋町のＩＣＴ教育の充実を図る。

（２）シビックプライドの醸成

①　あしや学の実践

○　地域の「ひと、もの、こと」を活用した実践の充実を図る。

②　歴史や文化にふれる事例

○　呈茶体験や鋳物師、学芸員等の教育活動への活用を図る。

○　芦屋町に異動してきた教職員を対象にした芦屋釜の里での研修会を実施する。

③　郷土、地域、学校への誇りを育てる取組

○　新たな取組の掘り起こしを図る。

（３）英語教育の充実

①　小学校英語専科教員の継続活用

②　英語体験活動の充実

○　県立高校ＡＬＴを活用した事業を推進する。

③　英検補助事業の推進

○　中学校入学説明会等での周知に努め、受験率の向上を図る。